

SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860
E-mail takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp

夏休み特別企画

木で作ろう!

造形の森展

未来の
アーティスト
集まれ!!

未来のアーティスト
僕から君たちへ

島田絃一呂展



▲「造形の森」展の制作・監修にあられた静岡大学教授・杉山明博氏

特別展のオープニングレセプションは7月18日(金)3時より美術館正面玄関前において行われました。濱中常務理事が主催者を代表して挨拶を述べ、各方面のご理解とご協力により今回の企画展の開催ができたことに感謝を申し上げます。

来賓の三村申吾青森県知事(代理)よりご祝辞をいただき、開催地の福士孝衛七戸町長が歓迎と御礼の挨拶を述べられました。

また二科会彫刻部会員の島田絃一呂氏は、平成13年の鷹山コレクションランプ修理を述べられました。

夏休み期間を中心に開催される当美術館の企画展は、平成13年には手塚治虫展、そして平成14年には藤子・F・不二雄展を開催して子供達を始めとする多くの皆様の来館をいただいでまいりました。

本年は作品と子供達とのふれ合いに趣向をおいた参加体験型の展覧会「木で作ろう 造形の森展」と二科会彫刻部会員の木彫作家島田絃一呂氏の作品展の二展を7月19日(土)～9月7日(日)まで同時開催致しました。

「木」という素材に見て、触って、形を作る。あるいは「木」を通じて作家の感性・創造力を感じることできた今回の特別展の入館数は八千人を超え成功裡に終了いたしました。



▲二科会彫刻部会員の木彫作家島田絃一呂氏

続いて、「造形の森展」の制作・監修にあられた静岡大学教授で造形作家の杉山明博氏をご挨拶され、多くの子供達が「木」という素材に触れ、自らの創意によって「もの」を作り出していくという体験を通じ、創造力が育まれることを期待しますと述べられました。



▲後列左より濱中常務理事・松本議長・本間会長・杉山先生・三村知事(代理)・島田先生・福士町長・鷹山増子名誉館長。前列は「美術館アートクラブ」会員の皆さんによるテープカット

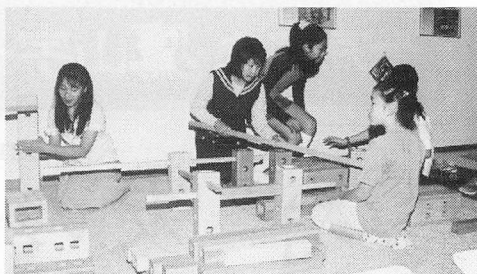
に続いて、当美術館には2度目のご訪問となります。ご挨拶では、今回の作品展には自分としても愛着のある多くの作品を展示しており、木彫によって表現された作品の表情を感じていただきたいと述べられました。

また、当美術館には2度目のご訪問となります。ご挨拶では、今回の作品展には自分としても愛着のある多くの作品を展示しており、木彫によって表現された作品の表情を感じていただきたいと述べられました。

町議会議長と美術館関係者が並びました。

その前の列には、本年より始まった体験講座「美術館アートクラブ」に参加している小中学生が並び、一緒にテープを切り企画展の開催を宣言しました。

家族や子供達を対象にして、体験型の企画展と鑑賞型の作品展を併催した本展は、美術館スタッフにとっても初めての体験で様々な苦労もありましたが、美術館の在り方、今後の可能性を探る、またとない貴重な企画展となりました。



▶みんな最初はおそるおそる、でも、次第に夢中になって思い思いの形をつくり、木と触れ合っていました。お父さん、お母さんも夢中になって、美術館で長時間を過ごした家族も…。また、なかなか帰ろうとしない子どもたちにお手上げの様子でした。

造形の森へ 島田弘二 作品展にて

◀島田先生の猫をモチーフにした作品は「えっ!?これも木で!!」と、来館者の驚きの的でした。「僕もコレつくる人になる!」「力もいいたいと思っただけ、チヨウコクカになってもいいよ!」子どもたちからのそんな言葉が、とても心地よく響いた会場でした。



友の会研修旅行に参加して

「生誕百年記念展・棟方志功」

「わだばゴッホになる」

白石 昭宣

去る8月10日、昨夜来の台風之余波の大雨もすっきり上がった青空のもと、参加者23名を乗せたバスは県立郷土館を目指して七戸を出発しました。「生誕百年記念展・棟方志功」わだばゴッホになる」の見学の日です。車中で友の会理事の盛田さんから、生前七戸の旅館で志功を囲んでの座談会があり、その中で志功は「作品を創らせているのは、自分の背後に大きな創造の神様がそうさせているのだ」という意味のことを手振り、身振りで話された。という貴重な体験のお話を聞いて、鑑賞への期待をますます大きく膨らませました。

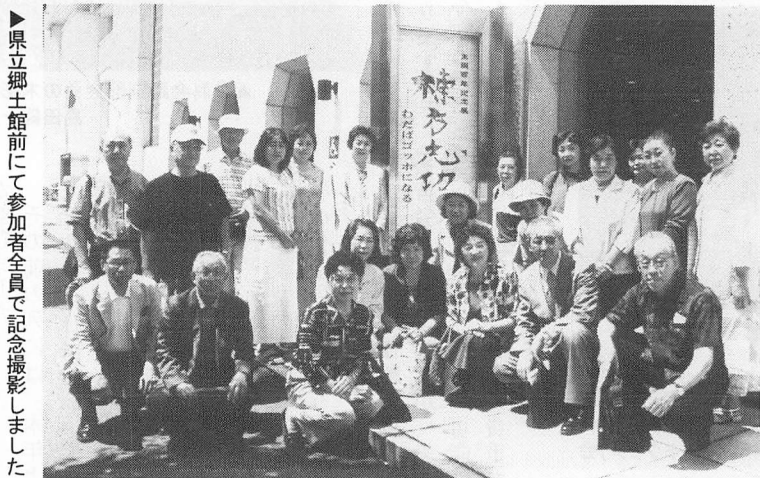
バスは11時15分予定通り郷土館に到着しました。いよいよ大勢の見学者に混じった鑑賞です。目に飛び込んでくる数々の作品や版木に直接触れ、「わだばゴッホになる」と夢見た一青年が、柳宗悦をはじめ、河井寛次郎や浜田庄司など、自分を版画家へ

と大きく変貌させてくれた多くの人々と出会い、凄じいまでの情熱と努力で才能を昇華させながら、そこに雄揮な造形美と、深い精神性に支えられた創造力をダイナミックに表現し、独特の美の世界を確立して「世界のムナカタ」に成り得たことなど、幅広い棟方芸術の真髄に触れることができました。その偉大さに身震いし、大きな感動を覚えずにはいられませんでした。郷土館の前で記念撮影後、善知鳥神社近くの料亭「三ツ石」で昼食を美味しくいただきましたながら、会員の方々と親しく懇談できたことも楽しい思い出と成りました。

その後、生誕百年記念を記念して特別展を開催している志功記念館では、小野館長さんに温かく迎えられることのできた初期の油彩や、唯一の母校である長島小学校、そして、こよなく愛したふるさと青森市などへ贈った秘蔵品を心ゆくまで鑑賞しました。館前には志功が好きだった「おもだかの花」が植えてあり、特別展に趣を添え、さらに印象深くさせてくれました。

隣にある旧青森市民図書館では、写真家・濱田益水が捉えた晩年の志功の写真展が開かれており、チャ夫人との仲睦まじい光景などもあり、作品からだけでは伺うことのできない、版画家・棟方志功を身近に感じさせてくれました。

帰りは盛田さん、大池学芸員さんの特別の計らいで、浪打にある沼田家(京都の大工による建築で、今年で72年を迎え、青森市内における最も貴重な和風建築の一つ)で開催されている「志功生誕百年事業」リンクイベントとして「ナンシー関消しゴム版画展」を鑑賞できたことも嬉しく思いました。



▶県立郷土館前にて参加者全員で記念撮影しました



アートツアー・イン青森「成田亨が残したもの」

～ウルトラマンの産みの親・成田亨(なりたとむる)没後初の回顧展～

10月13日(月・祝)迄開催中!

会場 = 鷹山宇一記念美術館 & 山勇 (七戸中央商店街 イベント広場前)

鷹山宇一記念美術館
News & Report
2003年9月15日発行

ウルトラシリーズの基礎となったウルトラQ、ウルトラマン、ウルトラセブン三部作の、登場するヒーローや、怪獣、メカのデザインを手掛けた青森出身の彫刻家・成田亨。そのデザイン原画をはじめ、彫刻、油彩を一堂に公開するとともに、あわせて、成田の残した文化環境の中で育った若手アーティストの作品も展示し、芸術家・成田亨が社会に与えた影響についても検証していきます。ファン待望! 成田芸術の全貌にせまる特別展です!!



▲開催式にてご挨拶を頂戴しました成田亨夫人・成田流里氏

▶初日前日の9/12(金)関係者をお招きして開催式とテープカットを行いました。写真左から、「山勇」を会場として使用するにあたりご協力をいただいた山本健治氏、成田亨夫人・成田流里氏、青森県立美術館(仮称)館長・黒岩恭介氏、七戸町長・福土孝衛氏、当財団常務理事・濱中達男



▲初日9/13には七戸中央イベント広場においてオープニング・パーティーを開催しました。料理ユニット「東京カリ〜番長」特製カレーを食べながら、出品アーティストたちとナマで語らうひととき...。当日は、会場設営、デザートサービスなど「七戸中央商店街」「アニマシオン七戸」そして「友の会」と、多くの皆様のご協力をいただきました。紙面をかりて御礼申し上げます。

●インフォメーション●
「美術館入館料」一般¥500、学生¥300、小中学生¥100
※山勇は無料です
「開館時間」午前10時〜午後6時
(入館は午後5時30分迄)

※シンポジウム※
怪獣、特撮、そして美術
成田芸術理解のために
10月5日(日)
13:30~15:30
会場 = 柏葉館(入場無料)
○○○パネリスト○○○
藤川桂介(作家・脚本家)
榎木野衣(美術評論家)
樋口真嗣(特技監督)

□出品アーティスト□
山田卓司(やまだたくし)氏
カリスマ的な人気の情景模型家! ウルトラマンシリーズを展示。



□出品アーティスト□
角孝政(すみとかまさ)氏
不思議な生物をモチーフにした作品で注目のアーティスト! 両会場に作品有り。

□出品アーティスト□
伊藤隆介(いとうりゅうすけ)氏
「山勇」という歴史的建造物を会場に「映像を使った空間作品」を展示!



□出品アーティスト□
会田誠(あいだまこと)氏
現代日本を代表する今最も話題のアーティスト。巨大な新作絵画を出品!

第3回鷹山賞児童作品展
第3回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品

11月22日(土)→12月14日(日)

次の特別展

第63回国際写真サロン展
第13回関東本部委員展

10月18日(土)→11月3日(月・祝)

鷹山賞児童作品展は、青森県南部地方小中学校児童生徒に作品を公募、制作体験を通して自由な創造の喜びを味わってもらおうと願い開催する絵画コンテストで、今展で第3回展となります。その入賞入選作品を展示するとともに、同年代の世界各国の子どもたちに作品を公募する「地球環境世界児童画コンテスト」(IQNet、JQA主催)から優秀作品を展覧します。現実の生活の中で見つめているその先にあるものは? また、子どもたちが今何を夢見、未来に何を期待しているのか...?

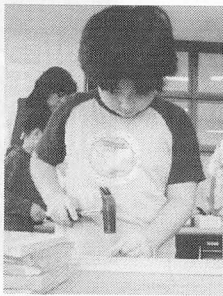
南部の子どもたち、そして世界各国の子どもたちの力作に出会えるこの機会が今から待ち遠しく思います。是非ご家族でご来館下さい。

当館恒例の特別展となりました「国際写真サロン」展(朝日新聞社・全日本写真連盟主催、コニカ協賛)。国内で最も権威ある写真コンテストとして知られるその応募作品から130点の入選作品を紹介します。第63回展となる今展では40カ国・地域から3,006点、国内から3,334点もの応募がありました。国や地域、プロ・アマの枠を超えた、写真の可能性に挑戦した作品の数々、様々な表現をお楽しみ下さい。また、10月26日(日)には、全日本写真連盟青森県本部主催による写真教室とモデル撮影会が開催されます。なお、会期中は、昨年のモデル撮影会写真コンテストから入賞作品も展示します。あわせてご鑑賞下さい。

😊 美術館 アートクラブ 😊

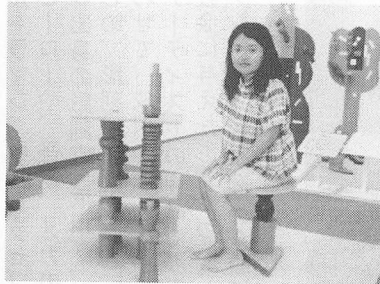
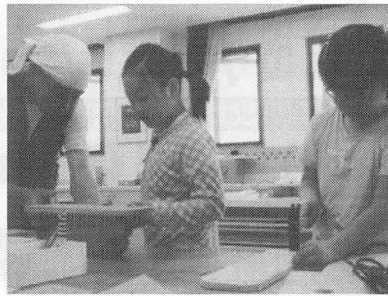
【担当/曾根原牧子】

今回は「展覧会を見に行こう」ということで、鷹山宇一記念美術館で開催された「造形の森展」の鑑賞と、ワークショップ「鳥の巣箱作り」からその様子を紹介します。



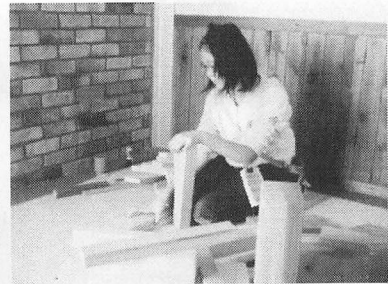
▶ワークショップ

金槌でトントン釘を打ったり、まるで大工さんになったよう、完成した「巣箱」に鳥さんが遊びに来られる日が待ち遠しいです。



▲造形の森展

テーブルとイスをつくったよ。少し不安定だけど座れる！



▲造形の森展

このコーナーには、大きさ、形も様々な約10種類の「木っ端」がありました。重さや硬さの違いを比べてみました。



◀造形の森展

見立て「小さな家」



▶造形の森展「鳥を作ろう」コーナーにて友だちと一緒に楽しく！私たちがオリジナルのこの鳥の名前を考えている時だって、なぜだか楽しくなっています。



美術館目録

【6月】

- ◇「春季二科展」最終日/成田亨展「打合せのため県学芸員工藤氏、板倉氏並びに出品作家・伊藤氏」(来館1日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(3日~6日)
- ◇常設展「鷹山宇一の世界」初日/友の会総会開催(7日)
- ◇当財団平成15年第2回理事会開催(8日)
- ◇当財団平成15年第2回評議委員会開催(9日)
- ◇楽しい旅の会様 38名(来館12日)
- ◇鷹山館長十和田市で開催のこども文化県民運動協議会(に出席(14日)/美術館アートクラブ「紙漉をしよう」開催(14・15日)
- ◇火曜サロン開催(17日)
- ◇友の会主催「イタリア美術講座」第2回開催/美術館アートクラブ「木のオブジェ」開催(21日)
- ◇「七彩会」油絵教室開催(22日)
- ◇防災訓練を実施(23日)
- ◇見町観音堂、小田子不動堂絵馬等資料害虫防除のため燻蒸処理につき絵馬館臨時休館(24日~7/18)
- ◇平内町町内連合会様 27名(来館24日)
- ◇「成田亨展」打合せのため、県立美術館黒岩館長、学芸員工藤氏、板倉氏、池田氏七戸町等関係機関を訪問(26日)
- ◇むつ市老人クラブ「品の木青葉会」様 20名(来館2日)

- ◇ABA青森朝日放送取材(4日)
- ◇友の会主催「イタリア美術講座」第3回開催(5日)
- ◇美術館アートクラブ「ワタシノナマエ」開催(5・6日)
- ◇蒼前老人クラブ様 19名(来館/鷹山館長青森市の「あすなる大学」で講演(8日)
- ◇青森銀行西十和田支店様 46名(来館9日)
- ◇日通東北地方旧友会様 40名(来館10日)
- ◇「成田亨展」打合せのため県学芸員工藤氏、板倉氏(来館11日)
- ◇「七彩会」油絵教室開催(13日)
- ◇ITB取材(14日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(15日~18日)
- ◇「造形の森展」展示作業のため朝日新聞社小倉氏来館/小田子不動堂絵馬懇談会開催(15日)
- ◇「造形の森展」島田紘一 呂展「開催式」(18日)
- ◇「造形の森展」島田紘一 呂展「初日」(19日)
- ◇美術館アートクラブ「キッズ・アート・ワールド青森」参加のためむつ市へ/明照保育園様 21名(来館25日)



▲「美術館アートクラブ」の子どもたちも「キッズ・アート・ワールド青森」に一緒に参加！手も足も泥んこまみれ！でもそれがまた楽しいんだ!!「成田亨展」出品アーティスト・会田誠さんとつくったよ!

- ◇美術館アートクラブ「木のオブジェ」開催(26日)
- ◇RAB活彩あおもり取材(30日)
- ◇鷹山館長八戸市美術館で開催の「鈴木コレクシオン展」見学(31日)
- ◇開館記念日につき夜8時まで延長開館/七戸町新任教員「一行様郷土学習のため」(来館1日)
- ◇RAB「造形の森展」島田紘一 呂展「取材」
- ◇鷹山館長三沢航空科学館開館式典へ出席(8日)
- ◇友の会研修旅行を実施「棟方志功展」(ナンシー関展)「見学」(10日)
- ◇階上町やまびこ子供会様 26名(来館11日)
- ◇ふるさと伝統さがし講座「一行様」40名(来館16日)
- ◇美術館アートクラブ「展覧会を見に行こう」開催(16・17日)
- ◇平内町童子小学校PTA、児童24名様(来館17日)
- ◇友の会主催「イタリア美術講座」第3回開催/友の会役員会開催/奥入瀬小学校PTA、児童20名様(来館17日)
- ◇鷹山館長五戸町の「幼児教育研究会」で講演(23日)
- ◇ITB取材(23・24日)
- ◇城南小学校1・6年生 98名様(来館26日)
- ◇城南小学校4年生 32名様/七戸小学校柏葉学級様(来館27日)
- ◇熊本県御舟町議会議員「一行様視察のため」(来館28日)
- ◇城南小学校2年生 40名様(来館29日)

イタリア美術講座 に出席して

苦米地 久子



イタリア美術講座が開かれると知り、単純に何かを知りたいと講座参加を申し込んだのが浅はかであった。まさか原稿提出の義務があるなどどこにも書いていなかったのに、と悔やんでいる。なんと無責任に漫然出席していたことだろう。

講師の先生方には誠に申し訳なくお許しいただきたい。出席している方々はみんな美術の専門家なのであるうと思いがながら、できるだけ前の席に陣取っていたのが恥ずかしい。しかし、次回もおそらく駐車場が混雑しないうちに行くつもりでいる厚かましきである。さて、参加者はどのような観点で講座に参加しているのでしょうか。美術専門でもない一野

次馬の私は、歩けるうちに日本から遠い国を旅しよう、イベリア半島を大西洋が望める西端から地中海沿いにあちこち20日位歩き回り、イスラム文化とキリスト教との融合に衝撃を受けていたの

である。プロテスタントの学校に中学校から大学まで在学し、毎日賛美歌を歌い、キリスト教の宗教画・彫刻などはルネッサンス美術と関係なく触れていた。しかし、海の外に足を向けてさらに異なった宗教や文化、経済、国民性、侵略、抵抗、風土、気候、と見方を広げると限らないものが開けてくる。

おいしい御馳走を最後にいただくのが小さい頃からの癖でした。レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」では、一人一

人の表情から彼の描こうとした心情に迫ってみたい。「ダビデ」や「ピエタ」、「曙」や「黄昏」、「昼」も「夜」にも会いたい。ラファエロの聖母マリアの美しい姿にあやかりたい。これらはゆっくり、ていねいに、時間をかけて私の旅の最後にしよう。

それまでは、シチリアやチュニジアにおける古代ギリシャやイスラム文化、ローマ帝国の名残りの遺跡を見よう。あの素晴らしい文化を持つイスラムの人達は決して悪人ではないと信じている。チグリス川もユーフラテス川にも行かねばならぬ、とテロの鎮まるのを待っていた。

東方教会と西方教会の中央にあるイタリアは、三方を海に囲まれ穏やかな気候に恵まれていた。そこを支配していた豪族たちの豊かな富をパトロントとして、彼らは制作に不自由ななかった。マザッチョ達が開けたカーテンは、沢山の舞台場面を見せてくれた。ルネッサンス美術は、絵画、彫刻、建築と、トスカーナ地方を舞台として思う存分総合的に何事も芸術的場面を完成させていったこ

とが分かった。花が咲き、青い空と海の季節はさぞかし最高であろう。風に吹かれてゴンドラに乗るのだ。シエナやアッシジ、ヴェローナもヴェネツィアも絶対はずせない。送られてくる旅行ガイドを毎月見ているうちに、狙っている獲物はテロ後2年も経とうとしている。

クレオパトラも歩いたであろうエフェソス遺跡の列柱の陰に見え隠れするイエスと使徒たちの姿。雷が轟き海の上をキリストが歩くナザレ。天を突き刺すゴシックの尖塔。ミナレット。「クオ・ヴァデス」時間は待つてくれない。また一つ年を重ねよう、時を刻む悪魔が近付いて来る。待つのも限度。諦めるか行くしかない。最後が先になっても世の中の情勢は変わらない。講座が進むにつれ心が揺れる。テロはいつだっておきるのだ。世界中の美しいものが破壊されないうちに。平和が何より大切なのだが・・・。

To go or not to go. That is the question.
Quest - ce la, ce la?
主のみこころのままに。
【和田市/友の会会員】

Congratulations!

大変うれしいニュースです！鷹山宇一記念美術館と親交の深い二科会絵画部理事・栗山淳先生と彫刻部評議員で(財)鷹山宇一記念美術振興会理事・吉野毅先生、そして、二科会青森支部の高橋美津子さん、第88回二科展において左記のとおり輝かしい賞を受賞されました。心からお祝いを申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

栗山淳先生
「山」

(油彩・100号)

【内閣総理大臣賞】

絵画部会員作品の中から最も優れた作品として選出されます。写真は、H12年の鷹山宇一記念美術館特別展「春季二科展」に来館された時の栗山先生。



吉野毅先生
「夏の終わり」O3」

(H188.0×57.0×48.0cm)

【文部科学大臣賞】

彫刻部会員作品の中から最も優れた作品として選出されます。写真は、H13年の鷹山宇一記念美術館特別展「春季二科展」に来館された時の吉野先生。



高橋美津子さん
「インナートリップ2003-II」

(油彩・F100号)

【パリー賞】

1960年の二科展45周年を記念して巴里賞が設定されました。絵画部一般並びに若手会友を対象とし、有望作家をパリに派遣します。写真は今年の「青森二科展」会場にて、高橋さんと作品。



私のおすすめ美術館

『足立美術館』

小向 慎

足立美術館に行くことが出来た。ようやくにである。山陰の島根県安来市、松江市の近くで安来節の地である。横山大観の作品約千三百点をメインに竹内栖鳳、川井玉堂、橋本閑雪等近代日本画壇をつくり上げた巨匠の作品三百点、上村松園、鏗木清方、伊藤深水等の美人画、河井寛次郎、北大路魯山人等の陶芸と作品も半端でない。

大観の絵は私の日本画に対するイメージを大きく覆してくれた。枯れた水墨画などというものはなく、まず、力強さに圧倒された。二曲一双の屏風「神州第一峰」は雲海に浮かぶ富士山と重なり合った山々、半分覗いた太陽が左右に描かれているが、湧き出ているような雲の量感が凄い。屏風の地の金色が華やかさではなく、日の出前の空の明るさになっている。

私が行ったとき夏季特別展「横山大観と日本画の巨匠たち」を開催していた。横山大観は偉大で有名すぎ、若い頃は敬遠気味であったが、昨年、東京国立博物館で「横山大観展」があり、気が向いて覗いて見たのがきっかけで、長野市に昨年開館した水野美術館の大観展も入れて大観にご縁が繋がっている。

元の世界に迷い込んだようだ。自分の部屋において眺めたら引き込まれるんじゃないかなろうか、とも思われる。大観初期の「無我」の坊やにも三度お目にかかることになったが、この坊やや国立博物館と足立美術館と二人いるのだろうか？調べていないので分からないが、あどけない子と大人びたのと、表情が違うような気がする。

「海十題」のうち「南冥の夜」と題されるものには不思議な感覚に陥る作品である。南海の荒波にある島には椰子の木と松が混じって生え、薄青い空の一隅に星が輝いていて、どこか異次元のほかに日本庭園が素晴らしい。戦国の昔、毛利と尼子の合戦があったという一万三千坪の地に、枯山水庭、白砂青松庭、苔庭、池庭と連続していながらそれぞれ趣の異なる庭が次々と現れ、そのまま絵の世界だ。「お前にぜひ見せたい」と夫が話していたのは絵よりこの庭のほうだったのかもしれない。

オススメ情報!!

弘前高校創立120年記念

第34回 日展 弘前展

青森県では初めての「日展巡回展」

会場／青森県武道館

平成15年9月20日～10月10日

一般前売券¥800、当日券¥1,000

高校生以下、65歳以上、障害者の方は無料

※前売券は鷹山宇一記念美術館でも販売中！※
会期中もお求めになれます

音の詩人・響きの画家

大萩康司ギター演奏会

会場／十和田市民文化センター

平成15年10月8日【水】

7:00 pm～(開場は6:30)

前売券¥3,000【全席自由】

(前売券は鷹山宇一記念美術館でも取り扱っております)

今最も期待されているギター界の若き天才！大萩康司さんの演奏会が、このほど十和田市を会場に開催されます。大萩さんは、昨年10月、鷹山宇一記念美術館でのギターリサイタルで、その素晴らしい音色とテクニクを披露、多くの聴衆を魅了しました。皆様お誘い合わせの上、是非お出掛け下さい。

◆足立美術館へは◆

- *所在地* 〒692-0064島根県安来市古川町320
TEL0854-28-7111/FAX0854-28-6733
<http://www.adachi-museum.or.jp>
- *開館時間* 4月～9月 9:00～17:30
10月～3月 9:00～17:00
- *休館日* 年中無休
- *入館料* 小中学生¥400、高校生¥900、大学生¥1,700、大人¥2,200

- *アクセス*
- 飛行機で・・・米子空港から車で45分／出雲空港から車で50分
- JRで・・・米子駅から車で30分／安来駅から車で15分
- マイカーで・・・大阪から3時間30分／岡山から2時間30分
- 高速バスで・・・東京から米子駅まで10時間45分、米子駅から車で30分
- ※無料シャトルバスの運行も有り。特に、足立美術館⇄JR安来駅間は直通で約20分。1時間に1本、8往復しています。

※※※※※上記情報に変更等がある場合もあります※※※※※
お出掛けの際には事前情報のご確認をおすすめします

編集後記

今年の夏は雨ばかり降って不景気に拍車をかけているようです。本当にお日様のありがたさが身にしみます。せめてこれからの秋の天気值得期待して、特別展が成功するようにお祈りしています。話は変わって、旅の楽しみは行く前の準備と、旅行中と、行った後の写真・パンフレット整理だと思えます。今、私は海外研修旅行の準備で現地の情報や宿泊するホテルを調べたりと忙しい毎日ですが、楽しんでいきます。

編集係 M・O